

東京で乗り換えて、北へ向かう新幹線の中で、僕はサントスさんに聞いた。

「田舎にはたくさんいますよ。わたしは子どものころ、よく馬に乗っていました。馬を一頭飼っていたんです」

「そうですか。どんな馬でしたか」

「静かで、優しい馬でした。名前は『ビューティー』といました。とてもきれいな馬でした」

「『ビューティー』は『黒馬物語』に出てくる馬の名前ですね」

「そうです」

馬好きで、この物語が嫌いな人はいない。

「わたしが十二歳のとき、ビューティーは足にけがをしまして、

それからすぐ、死んでしまいました」

馬は足にけがをしてしまうと、生き続けるのが難しくなる。サン
トスさんの目が、もう涙でぬれていた。

「それは悲しいことでしたね」

と僕は言った。

「すみません。楽しい旅行中に、こんな話をしてしまつて……。北海道まで、あと二時間ぐらいでしょうか。そうそう、北海道には『どさんこ』という北海道の馬がいるそうですよ」

「そうですか。それは楽しみですね」

窓の外は、さつきから同じ景色が続いていた。いつ見ても山がある。こんな所を、こんなに速い乗り物が走っている……。